

令和3年度 学校評価書 (自己評価と学校関係者評価の結果と考察)

東近江市立能登川北小学校

令和 3年 4月29日作成

<本年度の重点目標>

- 学ぶ力を高める 進んで学び、よく考える子の育成
- 豊かな人間性の涵養 心やさしく、助け合う子の育成
- 健やかな心身の育成 粘り強く、鍛える子の育成
- 信頼される学校づくり 地域と共に歩む学校の創造

<評価基準>

- A＝優れている(優れている状況にある ・ 数値基準90%以上)
- B＝良い(良い状況にある ・ 数値基準80%以上)
- C＝おおむね満足(課題はあるがおおむね満足できる状況にある ・ 数値基準70%以上)
- D＝要改善(課題が多く速やかな改善が必要な状況にある ・ 数値基準70%未満)

<自己評価の総評>

総合評価【B】

○「わかる・できる」の授業を意識して、「少数だからこぎめ細やかに子どもたちと学びが深められた。タブレットを活用して自分の思いをじっくり考え、反だちに伝えることができた2学期だったように感じる。

○くりみっこ賞の取り組みによって、子どもたちに「くりみのこ」が随分意識できるようになってきた。くりみっこ賞をもらった子とその理由を学級で紹介し、子どもたちの頑張りやよさを認める雰囲気を作るようにした。また、よくない行動を見かけたときには、自分の行動を振り返るように声をかけた。

○学年部での交流や幼小での交流など、他学年で交流をする機会をたくさん設けた。地域やボランティアさんとの交流の機会があまりとれなかったため、コロナ禍ではあるが、外部の方とも交流できるような授業も仕組んでいきたい。

<学校関係者の総評>

総合評価【A】

○成案目標・取組指標に対して校内でしっかり自校の改善方針を検討し、改善に向けて取り組む職員の姿勢が評価できる。現に一学期よりも二学期の方が向上している評価が多い。

○子どもたちが学校へ来て楽しく過ごせるように、要因を見つけ手立てをうってほしい。

○くりみっこ賞など一人一人を丁寧に見ていこうとする姿勢が感じられる。少数の学校のよさを生かした運営がされている点が評価できる。

○職員意識が高く、同じ方向を向いて取り組んでいる様子がうかがえる。

○先生方が子どもたちのために一生懸命がんばっていることがよくわかる。

項	評価項目	成果目標・取組指標	自己評価	自校の改善方針	学校関係者評価委員会の意見	学校関係者評価
(1) 学校経営	① 学校目標	・学校だより、ホームページ、関係団体会議等で積極的に発信する。 ・学校やPTAからの北小の合言葉「くりみのこ」について知っている保護者を80%以上にする。	B	①くりみっこ賞が子どもたちに浸透すると共に学校目標を認知する保護者が増えたと思われる。 ①生活の中で、子どもたちの方から「くりみのこ」の言葉がよく出てくるようになったと思われる。保護者からの表彰もあるように、地域にも根付きつつある。 ②学年ごとのカリキュラムは、職員室前廊下の掲示によって、見える化され、しっかりと意識できていると思う。縦のカリキュラムについては、見直しが必要である。	・子どもも保護者も目標を意識付けられている。 ・たてわりの活動を通して、下学年の子が上学年の子にあこがれをもち、上学年の子が下学年のお手本となる雰囲気になっている。	A
	② 社会に出て、自らよりよく生きていける力の育成	・小学校6年間を見通したカリキュラムを構築する。 ・年間を通して、たてわり活動の充実を図る。	C			
(2) 学習指導	③ 学力向上の取組	・児童一人一人が考えをもち、伝え合い学び合える授業の工夫・改善に努め、授業が分かるという児童を90%以上にする。 ・1年20分、2年30分、3年40分、4年50分、5年60分、6年70分の家庭学習の指導を続け、家庭学習の習慣が身に付いたと答える保護者の割合を80%以上にする。 ・子どもが主体的に学ぶ姿勢を大切に、ノートづくりやめあてを意識した振り返りを通して、子どもたち自身が学びを実感できるような授業づくりに取り組む。	D	③日々わかる授業に向けて努力がなされているが、学びを実感できるような授業づくりにおいての取り組みは、さらに焦点化(交流場面の設定・めあてと振り返りの関連性など)を進める。 ③一人一人の考えを認め、学び合える授業を目指してきたが、基礎的な力が十分ついていない子も見られることから、より基礎基本の力が身につくよう目指したい。 ③教師が説明して分かった！ではなく、児童に話す機会(時間)を保障し、子どもが活躍する授業を心がける。子どもたちの定着や課題を把握して、授業中のなるほど！できた！分かった！を目指したい。また、分かる授業はもちろん大切にしていきたいが、疑問や分からないことをみんなで解決していけるような授業でありたい。 ③家庭学習の推進について先進校の実践を集め、できるところから学校全体の取り組みとして進められるとよいと思う。現状は、各学年ごとの取り組みになっている。自分自身としては、宿題の出し方を工夫した。予習読み・基礎学力定着のための反復学習・読解力のトレーニング問題・短作文・文章題トレーニング・式からの問題作りなどのカテゴリーの中から意図的に仕組んだ。発達段階としては多めの量とは思うが、続けることで子ども達は慣れてきて、力も伸ばしているように思う。毎日の宿題が音読とドリル類だけでは学力向上の効果は限定的だと思ふ。 ④学びのスタンダードは、概ね満足している部分もあるが、よい変化をもたらすには、指導内容を絞ってのアプローチをしていく。 ⑤「うちどく」の取り組みを始めたことで、お家で本に触れる時間が増えたという意見を聞いた。お家での読書習慣がついていこう、引き続きお家の方へも発信していきたい。 ⑦積極的に自分の考えを発信しようという雰囲気になるよう、話しくなるような発問、スレが起きるペアワークを仕組んでいきたい。 ⑦発問や設定した話す場面の記録を残し、コミュニケーション能力の育成への効果があったのかをチェックする方法を取り入れてもよい。	・自分で考えさせる取組がよくわかる。 ・自分で学ぼうとする姿勢を大切にしていることが授業を通して感じられる。 ・授業改善への取組が充実している。 ・一人一人応じた指導が展開されている点が評価できる。	B
	④ 学習規律・学習集団づくり	・全学年一貫した指導「学びのスタンダード」を徹底する。(学習準備、ヘル着、学習のあいさつ、声のものさし、話し方、聴き方、鉛筆の持ち方等) ・授業中、教師や友達の話をしっかり聞く児童の割合を90%以上にする。	C			
	5 学校図書館の活用・読書習慣の定着	朝の読書、読み聞かせ、図書室利用指導等により、読書が好きと答える児童の割合を80%以上にする。 ・図書だよりなどにより親子読書を呼びかける。 ・すきまの時間に読書ができるように児童の身近に(図書バッグなど)読書する本を常備させる。	B			
	⑥ 英語教育(外国語活動)の充実	・担任が外国人講師等との連携を図り、コミュニケーション能力の育成をめざした授業を行う。 ・「英語の授業が好き」「英語の授業が楽しい」という児童を90%以上にする。	B			
	⑦ コミュニケーション能力の育成	・学習活動や朝・帰りの会で児童相互に伝え合う場面を設定し、話す力・聴く力の向上に努める。 ・授業中、積極的に自分の考えを話している児童の割合を80%以上にする。	C			
	⑧ 道徳教育の充実	・考え、議論する道徳科の授業を充実し、年間1回以上保護者に道徳の授業を公開する。	B			
	⑨ あいさつの充実	・家の人や近所の人、友達などに自分からあいさつできる児童の割合を80%以上にする。	D			
(4) 特別活動	⑩ 豊かな心情を養う体験活動の充実	・学校行事や縦割り活動の精選と質の向上を図る。 ・月1回以上学級会を行い、自分の思いを伝え、よさを生かしていけるようにする。	B	⑩今年度もたてわり活動が充実していると思う。また、代表委員会を例に、学級でもっと意見や思いを言い合える機会をつくってほしい。	・たてわり活動が充実していて、コミュニケーションや集団づくり、人間関係づくりにつながっている。	A
	⑪ 勤労や奉仕の精神を培う生活指導の充実	・自分から進んで、時間いっぱい掃除ができる児童の割合を80%以上にする。	A			
		・係活動、委員会活動に進んで取り組む児童の割合を80%以上にする。	B			
⑫ 豊かな人間関係を培う、交流活動の充実	・異年齢の集団との交流活動を意図的・計画的に実施する。	B	⑫日々の学習の中で、他学年への発表や交流を取り入れてもらっているのは大変よいことだと思う。計画的に取り組んでほしい。			

(5) 人権教育	13	人権尊重の精神と実践的態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づき指導を進め、学校生活を楽しむ児童の割合を90%以上にする。(いじめ防止) 友達よさを認め合う場を設定し、掲示するなど可視化を図る。(「今日のキラリ」「ほめ言葉シャワー」などの取組、ノートの書き方賞賛の掲示など) 教室に掲示する児童の作品には、指導者のコメントを入れ、自己肯定感の高揚を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 13 毎日帰りの会で学級のよさや個人のがんばりを出し合う。教師も子どものがんばりをたくさん紹介し、互いの良さに気づき、自尊感情を高められるようにする。 14 人権週間の時期だけでなく、年間を通じて人権に関わる取り組みを発信し、1年間の成長を見守る。 15 自分を大切にすることが、友だちや周りを大切にすることににつながることを、大人が繰り返し伝えていく必要がある。 16 「相手の話を聞く」ことが、相手を大切にすることの第一歩だと思う。「良いところを見つける」「ほめる」も大切だが、「しっかりと相手の話を聞く」ことに意識を向けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 下の学年の子が上の学年の子にあこがれる学校になっている。 子どもも学校に愛着をもっている。 	A
	14	保護者・地域と連携した人権教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> 人権にかかわる取組について、学年だよりなどで紹介し、保護者への啓発を行う。 日常的に、人権に対する意識を高める指導を継続的に行う。 人権週間、全校的な取組を通して、人権意識を高める。 	C			
(6) 環境教育	15	共生を目指す環境教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの17項目の視点を意識した活動を仕組む。 	D	<ul style="list-style-type: none"> 17 見える化しにくいと意識できない。17の項目のうちいくつかを、北小レベルで具体化して掲示するとよいと考える。 		B
(7) 国際理解教育	16	多文化社会に生きる国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> A・L・Tによる、母国の文化を紹介しながら、文化の違いや多様性を理解させる。 	D	<ul style="list-style-type: none"> 18 自分の学級だけでなく、学校全体に国際理解教育が染み渡るように工夫したい。 19 水曜日の午後を中心に、A・L・Tとの交流を計画していく。 		B
(8) 生徒指導	17	いじめを許さない集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律の確立や豊かな人間関係を築く学級経営を進める。 「いじめはいけない。ゆるさない。」という学級風土を築く。 いじめをしない、させない、見過ごさない行動をとる児童の割合を90%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 20 高学年は特にルールが曖昧になってくる時期だと思うので、教師も「見過ごさない」という意識で、アンテナを張る必要がある。また、何でも「いけない」の注意ではなく、なぜいけないのか児童と共に考え、児童自身が判断できるようにしていきたい。 21 少人数ゆえの人間関係の固定化による影響を注意深く見ていく必要がある。 22 教師のアンテナを高くし、普段と違う様子に気づけるよう意識する。 		A
	18	学校不応児童生徒へのきめ細かな対応	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談週間「10分間カウンセリング」や児童・保護者アンケートから児童の心身の状況を把握し、意図的・計画的に教育相談活動を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 23 気になる児童がいる際には、教育相談週間だけでなく、個別に、保護者から様々な視点(観察する人を担任以外に変えたり、見る時間帯を変えたり)で子どもを観察するようにすればよいと考える。 		
(9) 進路指導	19	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学年の発達段階に応じ、自分のよさや夢を語ったり書いてみる場を設定し、自分のよさを発見し、将来に夢や希望をもって生きようとする意欲や態度を養う。(キャリアパスポートの実施) 	D	<ul style="list-style-type: none"> 24 「キャリア教育の視点」を平日頃からもっていることが重要だと思う。学期の最後にキャリアパスポートへの記入を行うだけでなく、日頃行っている実践の中で、キャリア教育の視点が含まれていないかを自分自身や子どもたちに問うことが重要だと考える。 25 キャリアパスポートもそうだが、機会があることに、子どもが夢を描けるような話や出会いの場作りをしていきたい。 		B
(10) 特別支援教育	20	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 全児童の「チェックリスト」を実施し、適切な指導・支援を検討し実践する。 必要に応じて支援体制づくりを行う。 学期1回以上の特支推進委員会を実施する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 26 全校で、組織として引き続きやっていく必要がある。誰を窓口にするのか、報告等含めて情報共有は不可欠。 27 今年度、支援が必要であろうと思われる児童が数名浮上してきた。入学時からの情報がしっかりと引き継がれていない件もあった。特別支援を学校の中心に据えていくという意識を高め、年度代わりの引継ぎにめがけられないよう徹底する必要がある。 		A
	21	個別的教育支援計画の作成と活用	<ul style="list-style-type: none"> 個別的教育支援計画を活用する。 各学期および年度末に、支援計画・指導計画について保護者と懇談し、適切な支援・指導に当たれるようにする。 	B			
(11) 保健安全教育	22	安全教育の充実と安全管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 月1回防犯ブザーの点検を実施する。 児童のけが防止、危険回避のため、ヒヤリ・ハットとした体験を交流し危機意識を高める。児童にも示し、危険回避意識を高揚させる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 28 トイレへ行くときに廊下を颯爽と走っていくことや、休み時間校内でおにごっこをしているのが目立つ。なぜ、走ってはいけないのかその都度考えさせて、子どもたちが危険を実感して考える機会が必要だと思う。 29 下校や廊下歩行の仕方について、児童に返す場面をつくる。 30 メディアコントロールデーの過ごし方を交流するなど、自分たちでメディアについて考える場面をつくる。 		A
	23	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝、早起き、朝ごはん」を推進し、できる児童の割合を90%以上にする。 	B			
(12) 研究・研修	24	教職員の資質・指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的・対話的で深く学ぶ授業づくりに取り組む。(確かな学力・主体的に学ぶ力の育成) 常に学び続ける教師をめざす。(授業改善に向けた校内研究6回実施) 研究授業で学んだことを普段の授業に生かす。(日ごろの授業改善) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 31 教室の児童の少なさを生かして、どの子もわかるできる喜びを味わわせたい。個別指導により一層学び、国語や算数の授業改善にも動きたい。 32 少人数ならではの良さを生かして、みんなが分かる！できた！のいい！となれるよう教師の力量を高めていきたい。 33 定期的に日頃の取り組みの交流やふり返りの機会をつくることで、質の向上につながる。 34 自分事としてとらえられるような研修内容にしていかなければならない。 35 シェイクアウト訓練は1度しか実施できていないが、今後Jアラート訓練のときは、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善への取組が、内容的にも、研修を含め充実している。 	A
	25	教職員の危機意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事防止研修、人権教育研修、危機管理研修を計画的に実施する。 危機管理マニュアルの周知。 シェイクアウト訓練を6回以上実施し、危機意識の向上を図る。 	B			
(13) 地域との連携	26	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への適切な対応、支援・助言に努め「学校の先生には、子どものことについて気軽に相談できる」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 全学年で地域人材、資源を活用した授業を3回以上意図的・計画的に実施し、郷土愛を育む。 ふるさと「くまもと」が好きと答える児童の割合を90%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 36 学級通信を定期的に発行し、保護者に学校での様子をこまめに伝えるようにする。 37 余裕が生まれれば、保護者との連携も密になるので、働き方改革について常に考えていく。 38 地域の人材を活用する方向でも意識し、連携を深めるため、担任から声をあげていく。 39 地域の人材や教材を活用してくださっている先生が多い。年度初めしっかりと見直しをもち、計画的に取り組みるとよい。 40 ホームページの更新は、無理のない程度で行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と共に学校が歩もうとしている姿勢が感じられる。 ホームページを通して日々の活動を熱心に伝えているのが素晴らしい。 ホームページの更新が素晴らしい。 学校が大切にしていることが伝わってくる。 	A
	27	ホームページによる情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新を2日に1回以上行い、学校の地域への情報発信源とする。 	A			
(14) 施設・設備	28	施設・整備の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 月1回以上の安全点検の実施による、施設の安全確保の励行。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 41 個々の担当箇所の点検をもっと確実に行っていく必要がある。 42 校舎や器具などの不具合を見つけたら、その都度伝えていく。 43 ホワイトボードなどを活用したりチェックをしたりして、特別教室や空き教室の使用が重ならないようにする。 44 女子の更衣室については検討の機会をもちたい。 		B
	29	学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の充実に向け、空き教室や特別教室を有効に活用する。 	B			
(15) その他	30	幼児児童生徒の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく学校生活を送っている児童の割合を90%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 45 アンケートで楽しいと思っていない子もいたので、カウンセリング等で解決できるようケアしてきた。教室の雰囲気も良くなってきているが、低学年から引きずっている面もあるので、引き続き対応していきたい。 46 子どもは「学校が楽しい」と回答している子が大半ではあるが、そうではない子もいる。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出したり、納得して帰れるよう心掛けたい。 47 年間行事表や月行事予定表を確認し、計画的に行事や学習を組むことで、無理をせず楽しい学校生活につなげる。 48 児童の表情の変化に気づき、背景を探る。 49 子どもたちの話を聴くこと。そのために、大人に心の余裕がないといけないと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの子どもたちが学校を気に入っているし、学校に愛着をもっている。 	A
	31	保護者の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 我が子は楽しく学校生活を送っていると答える保護者の割合を80%以上にする。 	B			